

事例 1. 「小学3年生の社会科で「むかしの道具」をテーマに」

2月6日 5時間目 行田市内〇〇小学校 3年生1学級の場合

(博学連携展示「行田市のうつりかわり」開催期間中)

見学までのやりとり

※赤：〇〇小学校先生の行動 青：博物館学芸員の行動

- 1 2月26日－電話での予約・打合せの相談(学校→博物館)
日程について候補日を検討、予約の関係などから2月6日を選択
希望するテーマの概要を伝える。
・3年生の社会科で「むかしの生活道具」をテーマに講座を希望
・実物資料や体験できる資料があれば持ち込みを希望。
博物館から、展示開催中のため持ち込みのできる資料に限られる旨を返答
・持ち込み可能な資料などからテーマとして「衣服に関わる道具」を提案
「出張博物館の依頼について」(依頼)を博物館HPからダウンロードして記入
- 1月10日－「出張博物館の依頼について」(依頼)をFAXで提出(学校→博物館)
「出張博物館の依頼について」(依頼)を受理、内容を学芸員が確認して
担当学芸員、講座内容を検討
「出張博物館の依頼について」(回答)を作成し、FAXで送付(博物館→学校)
- 2月3日－授業の進度、当日の来校手順を電話で確認(博物館→学校)

講座当日

- 2月6日－学芸員が博物館車両に資料を梱包して載せ、来校
該当教室を訪問、持ち込み資料を運び込み
「出張博物館 in 教室」実施
・プロジェクターを用いて講座を開催
・洗たく板・たらい・炭火アイロン・火のし・コテなどを持ち込み、提示
・体験用の衣装(むかしの野良着)を児童が着用
終了後、資料を梱包して撤収

後日

「授業における博物館利用後のアンケート」を記入、FAXで送付(学校→博物館)

